

令和7年度
仙台青葉学院大学
自己点検・評価報告書

令和8年6月

目次

| | |
|--------------------------------|-----------|
| 自己点検・評価報告書..... | 1 |
| 1. 自己点検・評価の基礎資料 | 3 |
| 2. 自己点検・評価の組織と活動 | 7 |
| 【基準Ⅰ ミッションと教育の効果】 | 11 |
| [テーマ 基準Ⅰ-A ミッション] | 11 |
| [テーマ 基準Ⅰ-B 教育の効果] | 12 |
| [テーマ 基準Ⅰ-C 社会貢献] | 13 |
| [テーマ 基準Ⅰ-D 内部質保証] | 15 |
| 【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】 | 18 |
| [テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程] | 18 |
| [テーマ 基準Ⅱ-B 学習成果] | 20 |
| [テーマ 基準Ⅱ-C 入学者選抜] | 21 |
| [テーマ 基準Ⅱ-D 学生支援] | 26 |

1. 自己点検・評価の基礎資料

(1) 学校法人及び大学の沿革

<学校法人の沿革>

| | |
|--------------|---|
| 昭和 55 年 4 月 | 東北初の総合ビジネス系の学校として、仙台スクールオブビジネス（現 仙台医療福祉専門学校）を創立 仙台市青葉区五橋に五橋校舎落成 |
| 昭和 56 年 3 月 | 宮城県より、学校法人格の取得及び専修学校の認可を受ける。 |
| 昭和 61 年 4 月 | 学校法人大原学園（東京都）と提携し、仙台大原簿記専門学校（現仙台大原簿記情報公務員専門学校）を開校 |
| 平成 3 年 9 月 | 仙台市青葉区北目町に北目町校舎落成 |
| 平成 8 年 4 月 | 厚生大臣より理学療法士、作業療法士養成施設の指定を受け、仙台医療技術専門学校（理学療法学科・作業療法学科）を開校 仙台市太白区長町に長町校舎 A 棟及び B 棟落成 |
| 平成 8 年 7 月 | 仙台市青葉区中央に中央校舎本館落成 |
| 平成 13 年 1 月 | 仙台市青葉区中央に中央校舎 2 号館落成 |
| 平成 16 年 2 月 | 仙台市青葉区中央に中央校舎 3 号館落成 |
| 平成 16 年 10 月 | 仙台市青葉区中央に中央校舎 5 号館落成 |
| 平成 17 年 12 月 | 仙台市若林区五橋に五橋校舎 2 号館取得 |
| 平成 18 年 4 月 | 仙台市青葉区中央に中央校舎 3 号館 ANNEX 落成 |
| 平成 20 年 2 月 | 宮城県知事より認可を受け学校法人日本建設学園と合併し、東北理工専門学校（現 仙台工科専門学校）を設置校に加える。 宮城県黒川郡大和町の宮床校舎を継承 |
| 平成 21 年 4 月 | 文部科学大臣より学校法人組織変更認可、短期大学設置認可及び看護師学校の指定を受け、仙台市若林区五橋に仙台青葉学院短期大学を開学 |
| 平成 22 年 4 月 | 文部科学大臣及び宮城県知事より認可を受け、宗教法人陸奥国分寺より仙台デザイン専門学校の運営を引継ぎ、設置校に加える。 仙台市青葉区栗生に HOKUTO SPORTS SQUARE 落成 |
| 平成 23 年 2 月 | 仙台市太白区長町に長町校舎 C 棟落成 |
| 平成 25 年 3 月 | 仙台市若林区五橋に五橋キャンパス増築棟落成 |
| 平成 28 年 3 月 | 仙台医療技術専門学校を閉校 |
| 平成 29 年 3 月 | 仙台市太白区長町に長町校舎 B 棟を建替 |
| 令和 5 年 3 月 | 仙台市青葉区中央に中央校舎 7 号館落成 |
| 令和 6 年 4 月 | 文部科学大臣より大学設置認可及び看護師学校、理学療法士・作業療法士学校の指定を受け、仙台青葉学院大学を開学 |

仙台青葉学院大学

<大学の沿革>

| | |
|--------|--|
| 令和6年4月 | 文部科学大臣より大学設置認可及び看護師学校、理学療法士・作業療法士学校の指定を受け、仙台青葉学院大学を開学 五橋キャンパスに看護学部、長町キャンパスにリハビリテーション学部を開設 |
|--------|--|

(2) 学校法人の概要

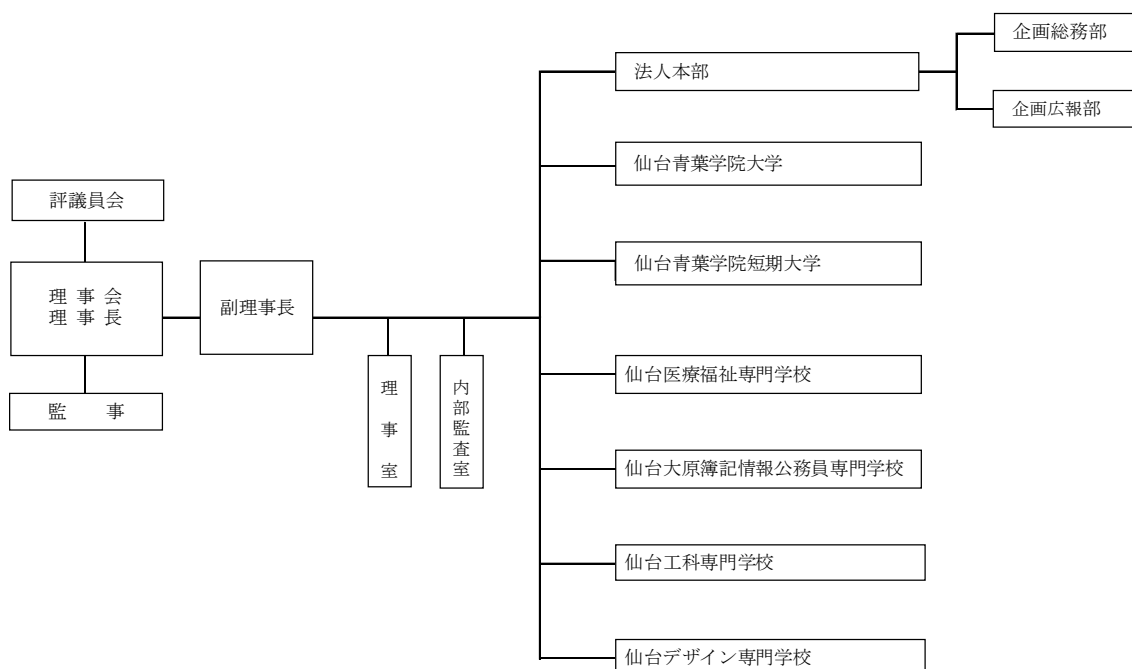
- 学校法人が設置する全ての教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数
- 令和8（2026）年5月1日現在

| 教育機関名 | 所在地 | 入学定員 | 収容定員 | 在籍者数 |
|---------------------|----------------------|------|--------|--------|
| 仙台青葉学院大学 | 仙台市若林区五橋3丁目 5番75号 | 190名 | 570名 | 579名 |
| 仙台青葉学院短期大学 | 仙台市若林区五橋3丁目 5番75号 | 565名 | 1,240名 | 1,065名 |
| 仙台医療福祉専門学校 | 仙台市青葉区中央4丁目 7番20号 | 290名 | 550名 | 376名 |
| 仙台大原簿記情報公務員 専門学校 | 仙台市青葉区中央4丁目 2番25号 | 255名 | 570名 | 565名 |
| 仙台工科専門学校 | 仙台市青葉区中央4丁目 7番20号 | 260名 | 460名 | 305名 |
| 仙台デザイン専門学校 | 仙台市青葉区五橋1丁目 7番18号 | 120名 | 240名 | 197名 |

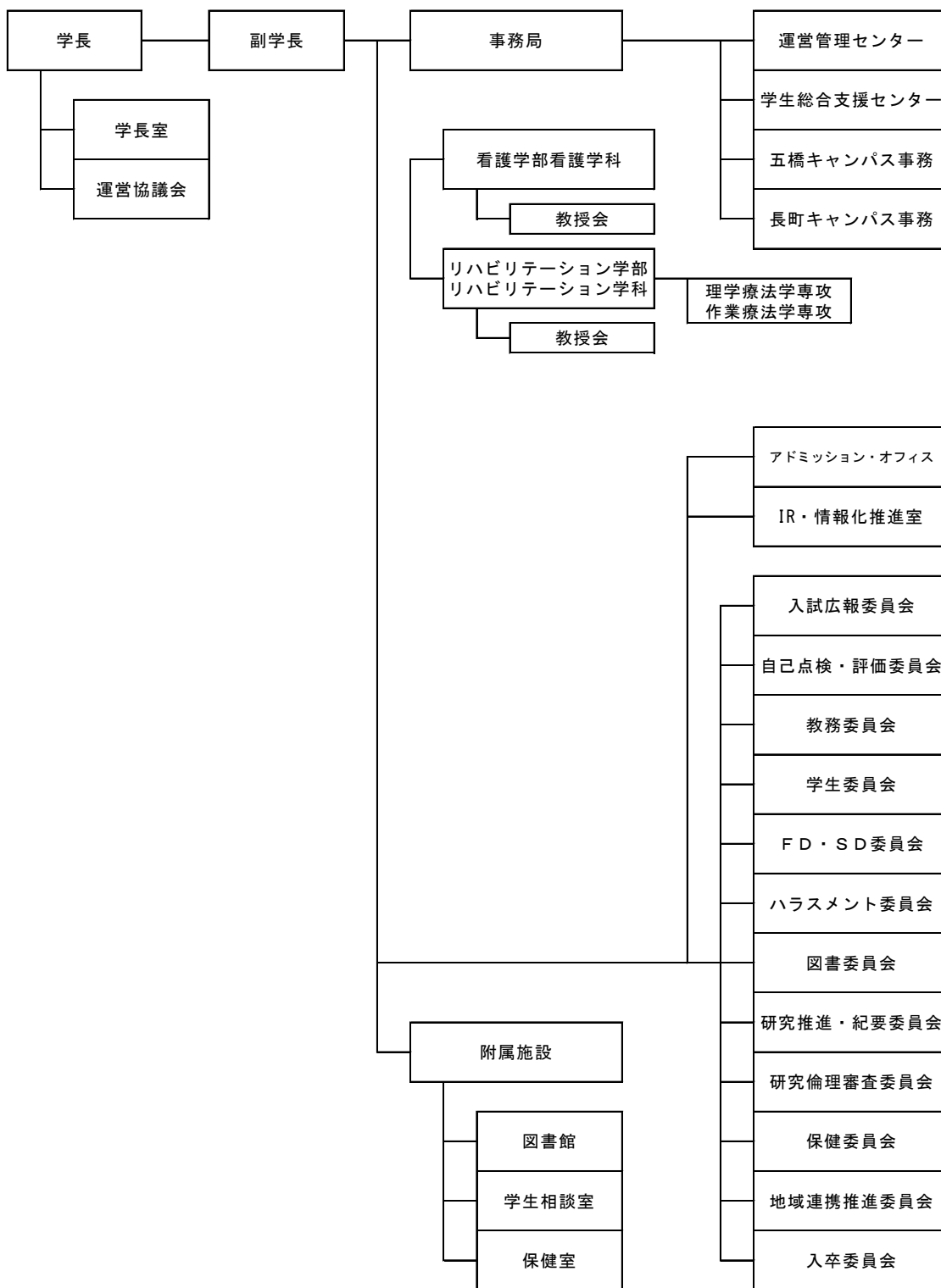
仙台青葉学院大学

(3) 学校法人・大学・短期大学の組織図

- 組織図
- 令和8（2026）年5月1日現在



■ 仙台青葉学院大学の組織図



■ 学生の入学動向：学生の出身地別人数及び割合（下表）

| 地域 | 令和6 (2024) 年度 | | 令和7 (2025) 年度 | |
|-----|---------------------|-----------|---------------------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | 人数 (人) | 割合 (%) |
| 青森県 | 11 | 5.7 | 16 | 7.4 |
| 岩手県 | 11 | 5.7 | 22 | 10.1 |
| 宮城県 | 123 | 63.4 | 125 | 57.6 |
| 秋田県 | 14 | 7.2 | 7 | 3.2 |
| 山形県 | 8 | 4.1 | 14 | 6.5 |
| 福島県 | 25 | 12.9 | 32 | 14.7 |
| その他 | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 |
| 計 | 194 | 100 | 217 | 100 |

2. 自己点検・評価の組織と活動

■ 自己点検・評価委員会（担当者、構成員）

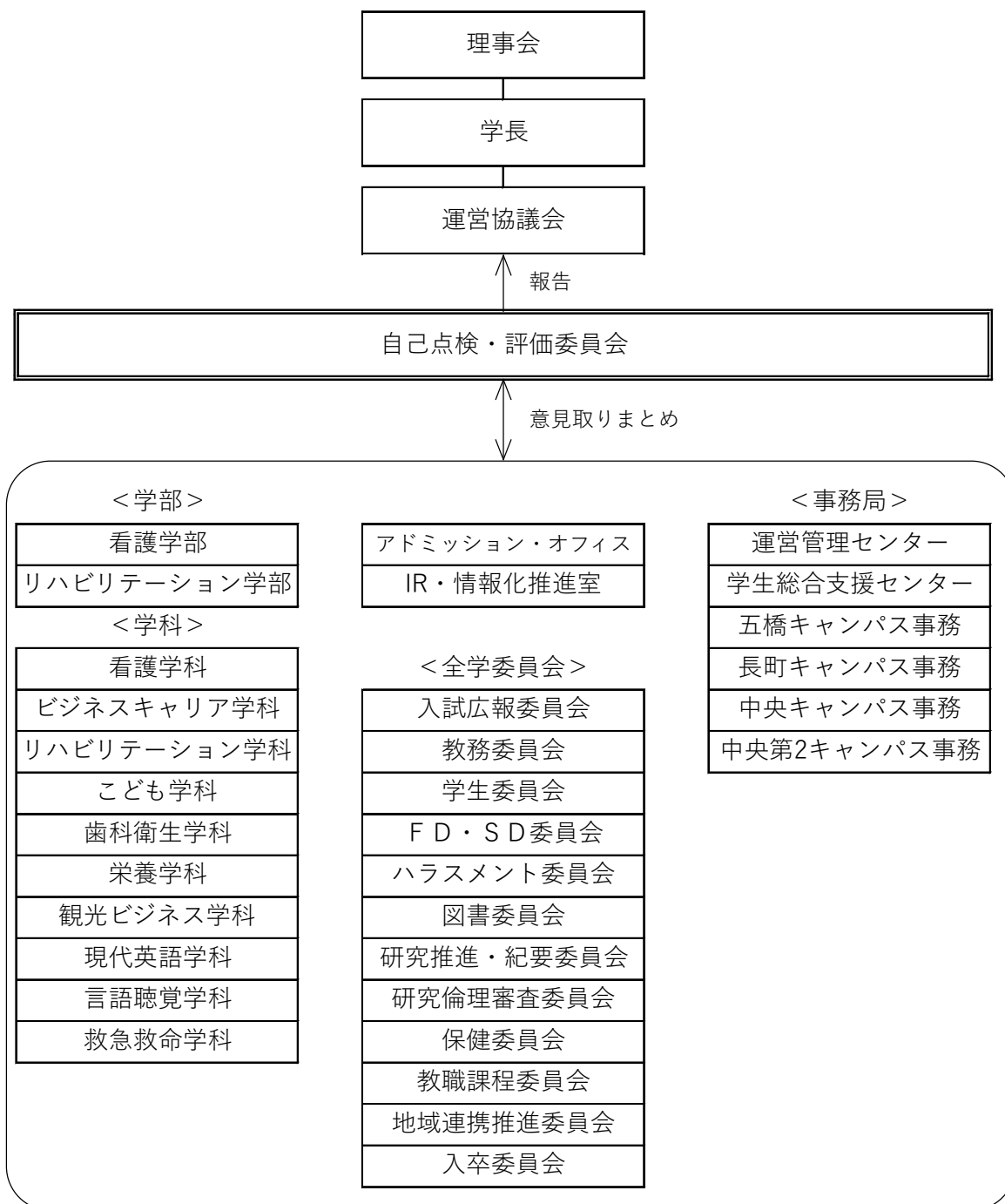
●令和7年度 仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同自己点検・評価委員会

| | 所属・役職等* | 氏名 |
|-----|--------------------|--------|
| 委員長 | 歯科衛生学科 教授・学科長 | 伊藤 恵美 |
| 委員 | 看護学部 教授 | 佐藤 幸子 |
| 委員 | 事務局 副事務局長 | 佐藤 泰子 |
| 委員 | ビジネスキャリア学科 講師 | 小野寺 修 |
| 委員 | こども学科 准教授 | 早坂 正年 |
| 委員 | リハビリテーション学部 教授 | 外里 富佐江 |
| 委員 | 栄養学科 准教授 | 藤枝 弥生子 |
| 委員 | 観光ビジネス学科 教授・学科長 | 高野 宏輝 |
| 委員 | 現代英語学科 准教授 | 相田 明子 |
| 委員 | 言語聴覚学科 助教 | 江畑 綾 |
| 委員 | 救急救命学科 准教授 | 田中 耕一 |
| 委員 | 事務局 事務局長 | 傳法谷 晃信 |
| 委員 | 学長室 室長 | 藤田 奈美子 |
| 陪席 | 副学長 | 瀬川 純 |
| | 事務局 運営管理センター センター長 | 小野松 香奈 |

※令和8年3月31日現在

■ 自己点検・評価の組織図

＜令和7年度 本学における自己点検・評価の組織図＞



■ 組織が機能していることの記述

本学では、平成21年度に「仙台青葉学院短期大学 自己点検・評価委員会規程」を制定し、教育、研究、社会貢献及び管理運営の各分野を範囲とし、水準の向上を図ることを目的とした自己点検・評価活動を継続的に実施している。令和6年4月の仙台青葉学院大学開学以降は、仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同委員会として組織的に活動を行っている。

自己点検・評価活動は、理事会から提示される「学園目標」及び学長から提示される「重点目標」「課題への取り組み」に基づき、年度の学内の点検・評価項目を設定することから開始する。5月～7月にかけては、一般財団法人大学・短期大学基準協会の第三者評価基準等に関する情報収集及び基準の確認を行い、8月～11月にかけて、点検・評価内容の整理を進める。11月～12月には、評価項目及び報告書作成スケジュールを確定し、教職員へ周知している。また、自己点検・評価に関する理解の促進及び情報共有を目的として、教職員を対象とした研修会を年1回程度実施している。2月～3月にかけて、各担当部署から提出されたアセスメントプランに基づく点検・評価結果を取りまとめ、自己点検・評価報告書を作成している。報告書は、仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会（以下、運営協議会）で審議を経て、理事会で承認を受けた後、ホームページに公開している。さらに、報告書の内容は、次年度の重点目標及び課題設定に反映されており、PDCAサイクルが組織的に機能する仕組みとなっている。

また、自己点検・評価の過程においては、外部評価及び学生との意見交換会（通称：学長カフェ）を通じてステークホルダーの意見を取り入れている。外部評価は大学・短期大学合同で年1回、学長カフェは年2回実施しており、得られた意見は運営協議会に報告し、全学で共有している。

■ 自己点検・評価報告書完成までの活動記録（令和7年度）

| 時期 | 内容 |
|-----------|---|
| 令和7年4月～ | <ul style="list-style-type: none"> ・各学科、各委員会等において、年度目標に基づいて活動を行う。（それぞれの部署において日常的に自己点検・評価を実施する。） ・各種調査（新入生アンケート、卒業生アンケート、学修行動調査など）を実施し、分析、結果の公表を行う。 ・学生と学長との意見交換会（学長カフェ）を行う（7月、12月）。 ・令和7年度外部評価を実施する（12月）。 |
| 令和8年2月～3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員対象の研修会を実施する（2月）。 ・各学科、各委員会等からアセスメントプランに則り点検・評価された項目及び当該年度の活動報告、意見聴取を行う。 ・「令和7年度自己点検・評価報告書（中間報告案）」を作成し、運営協議会にて審議を行い、学長が次年度の大学目標及び課題への取組みを策定する際に活用する。 |

| | |
|-----------|---|
| 令和8年4月～6月 | <ul style="list-style-type: none">・確定したデータ等を記入し、「令和7年度自己点検・評価報告書（案）」の最終取りまとめを行う。・運営協議会及び理事会にて、「令和7年度自己点検・評価報告書（案）」承認を得る。 |
| 令和8年6月 | <ul style="list-style-type: none">・「令和7年度自己点検・評価報告書」を本学ホームページにて公開する。 |

*本報告書は、一般財団法人大学・短期大学基準協会が定める評価基準（基準Ⅰ～基準Ⅱ）に準じています。

【基準Ⅰ ミッションと教育の効果】

[テーマ 基準Ⅰ-A ミッション]

<根拠資料>

1. 令和7年度 第12回看護学科（大学・短大合同）教務委員会・議事録（看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年度改訂版）への対応）
2. 令和7年度リハビリテーション学部シラバス

[区分 基準Ⅰ-A-1 ミッションを確立している。]

・（重点目標）実践的教育の充実及び基礎的研究力の醸成については、看護学部では、大学での演習内容と技術項目の卒業時技術到達度の整理を行い、リハビリテーション学部では、教員全員が担当するため、教員に対する事前オリエンテーションを実施する。

「令和7年度課題への取組み」より

<区分 基準Ⅰ-Aの現状>

実践的教育の充実及び基礎的研究力の醸成についての各学部の取組みは、下記のとおりである。

| 学部 | 取組み |
|-------------|--|
| 看護学部 | ・看護学教育モデル・コア・カリキュラムで提示された教育内容の基本看護技術の技術項目について、各領域の大学内の演習及び実習での到達状況について確認、検討を行っている（資料1）。 |
| リハビリテーション学部 | ・理学療法学専攻及び作業療法学専攻において、共通科目としてトランスレーショナルセミナーⅠ（1年次）及びトランスレーショナルセミナーⅡ（2年次）を実施した（資料2）。理学療法及び作業療法の専門性について理解を深めることを目的に、1・2年生合同授業を一部設置し、グループワーク等を通じた探究的な学修活動を行った。さらに、令和6年度の振り返りを踏まえ、新たにコミュニケーションワークブックを導入し、医療者としてのコミュニケーション能力及びディスカッション能力の醸成を図った。今後は、トランスレーショナルセミナーⅢ、トランスレーショナルセミナーⅣへと段階的に各専攻の専門性について学修を深めていく予定である。 |

<テーマ 基準 I-A ミッションの課題>

各学部の課題は、下記のとおりである。

| 学部 | 課題 |
|-------------|--|
| 看護学部 | ・各領域の演習及び実習での到達状況について整理統合し、卒業時技術到達度を検討する。 |
| リハビリテーション学部 | ・令和8年度以降に順次開始される「トランスレーショナルセミナーⅢ・Ⅳ」への円滑な接続と、学年に応じた専門性の深化が課題として挙げられる。また、1・2年合同授業においては、学生の習熟度に応じた効果的なファシリテーション技術について、教員間での更なる共有が必要であり、教育効果のばらつきを最小限に抑える工夫が求められる。 |

[テーマ 基準 I-B 教育の効果]

<根拠資料>

3. 第23回看護学科（大学・短大合同）教務委員会・議事録（履修系統図の作成、検討）
4. 第12回看護学部・看護学科合同代議員会議事録（履修系統図の作成 教務委員会）
5. 第26回看護学科（大学・短大合同）教務委員会・議事録（履修系統図の作成確認）
6. 令和7年度 看護学部シラバス
7. 第30回リハビリテーション学科（大学・短大合同）議事録

[区分 基準 I-B-1 教育目的・目標を確立している。]

[区分 基準 I-B-2 学習成果を定めている。]

[区分 基準 I-B-3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。]

・学修成果である五つの力とカリキュラムマップとの連結による客観的評価の実施と妥当性の検討については、シラバスの「準備学修」や「学修者への期待」について見直しを行い、令和8年度シラバスへ反映する。

「令和7年度課題への取組み」より

<区分 基準 I-B の現状>

学修成果である五つの力とカリキュラムマップとの連結による客観的評価の実施と妥当性の検討について、各学部の取組みは、下記のとおりである。

| 学部 | 取組み |
|-------------|--|
| 看護学部 | ・履修系統図を作成し（資料3、4、5）、看護教育モデル・コア・カリキュラムの視点からも教育課程編成に向けて検証・検討を行った。あわせて、シラバスの「準備学修」や「学修者への期待」について見直し、具体的な内容と時間などを明記した（資料6）。 |
| リハビリテーション学部 | ・学修成果である「五つの力」とカリキュラムマップとの連結について再確認を行い、客観的評価の妥当性に関する検討を実施した。具体的には、各科目の到達目標が「五つの力」のどの要素に対応しているかを確認するとともに、シラバスの「準備学修」及び「学修者への期待」の記述が、学生にとって学修成果を可視化しやすい内容となっているかについて点検を行った。令和7年度は、確認及び点検にとどまり、記載内容の修正は令和8年度対応とした（資料7）。 |

<テーマ 基準 I -B 教育の効果の課題>

学修成果である五つの力とカリキュラムマップとの連結による客観的評価の実施と妥当性の検討について、各学部の課題は、下記のとおりである。

| 学部 | 課題 |
|-------------|--|
| 看護学部 | ・シラバスの「準備学修」や「学修者への期待」について見直し、具体的な内容と時間の明記の徹底を図る。 |
| リハビリテーション学部 | ・学修成果の可視化を更に推進するため、成績評価基準や GPA の平準化について継続的なモニタリングを行い、客観的評価指標の精度向上を図る必要がある。 |

[テーマ 基準 I -C 社会貢献]

<根拠資料>

8. 令和7年度公認ボランティア活動報告（地域連携推進委員会）：第11回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会報告

[区分 基準 I -C-1 高等教育機関として地域・社会に貢献している。]

| |
|---|
| <p>・地域連携及びボランティア活動の活性化については、地域連携推進委員会が中心となり大学（学部）、短期大学（学科）の横断的なボランティア活動の取組みを強化させる。</p> <p style="text-align: right;">「令和7年度課題への取組み」より</p> |
|---|

地域連携及びボランティア活動の活性化に向け、地域連携推進委員会が中心となり大学（学部）、短期大学（学科）の横断的なボランティア活動を実施した（資料8）。

各学部の実践は、下記のとおりである。

| 学部 | 取組み |
|-------------|---|
| 看護学部 | <p>地域連携及びボランティア活動の活性化、横断的な活動の強化を目標に以下の活動を行った。</p> <p>1. 学部・学科横断的活動</p> <p>1) 地域連携推進委員会主導全学ボランティア</p> <p>①楽天野球団救護室ボランティア [Seiyo-USR] 教員 8 名 学生 8 名参加</p> <p>②仙台国際ハーフマラソン 教員 4 名 学生 4 名参加</p> <p>③子育て応援団すこやか 2025 教員 7 名 学生 10 名参加</p> <p>2) 担当教員間連携</p> <p>①子育て支援教室（わかばのもり）[Seiyo-USR]</p> <p>・幼児親子のための防災教室（9月2日） 教職員 2 名、地域参加 15 名</p> <p>・仙台市子育てフェスタ&健康フォーラム パネル展示（10月13日） 来場者 1,842 名</p> <p>②仙台荒町子まもりプロジェクト 教員 3 名 学生 7 名参加</p> <p>2. 看護学科独自</p> <p>①被災高齢者の交流支援 [Seiyo-USR] 教員 3 名 学生 9 名参加</p> <p>②若林区区民まつり 健康チェックコーナーボランティア 教員 1 名 学生 3 名参加</p> <p>③せいよう祭での障害支援サービス事業所の授産品の販売 教員 5 名 学生 6 名参加</p> <p>④お弁当ひだまり 教員 4 名 学生 8 名参加</p> <p>⑤五橋地域包括支援センター主催 ふれあいカフェ [Seiyo-USR] 「みんなで遊ぶ 懐かしいかるた」（3月13日）企画・運営 地域高齢者 30 名、学生 5 名、教員 2 名参加</p> <p>⑥認知症サポート養成講座（1月26日） 学生 30 名・教員 2 名参加</p> |
| リハビリテーション学部 | <p>地域連携推進委員会と協力し、実施した。</p> <p>①長町キャンパス周辺での「太白区民まつり（10月19日）教員 3 名、学生 17 名参加</p> <p>②「地域交流フェスタ（10月25日）教員 3 名</p> <p>③Seiyo-USR を基盤とした認知症カフェ「青葉いきいきカフェ（6月14日～12月13日 計7回）、教員 15 名、学生 27 名（延べ）を開催し、地域貢献意識の醸成を図った。</p> |

<テーマ 基準 I -C 社会貢献の課題>

地域連携推進委員会と連携し、ボランティア活動の年間計画を基に、学部・学科横断的活動を継続する。

[テーマ 基準 I -D 内部質保証]

<根拠資料>

9. 授業改善アンケート活用制度（改訂）令和7年度（FD・SD委員会）：第3回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会資料
10. 授業改善アンケート結果公表について（FD・SD委員会）：第4回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会資料
11. 令和6年度授業改善アンケート結果報告（HP公開用データ）HP公開用（FD・SD委員会）：第7回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会報告
12. 成績評価の平準化の指針（教務委員会）：第12回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会資料
13. FD・SD委員会 2025（令和7年度）前期授業改善アンケート学部・学科別回収率（大学、短期大学）2025年10月8日訂正

[区分 基準 I -D-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。]

[区分 基準 I -D-2 教育の質を保証している。]

・（重点目標）定量化した学修成果の可視化及びPDCAの実効性（特にAへの着目）を確保については、授業改善アンケート結果の回収率を上げて授業改善に活用する。GPAの平準化については、非常勤講師科目も含めて上限の目安を設定する。

「令和7年度課題への取り組み」より

<区分 基準 I -D の現状>

定量化した学修成果の可視化及びPDCAの実効性（特にAへの着目）の確保については、学修成果の可視化及びPDCAサイクルの実効性を確保するため、授業改善アンケート結果を教育改善に活用する体制の強化を図った（資料9）。特にアンケート回収率の向上を重点課題とし、アンケート回収方法を従来の方法からUNIPAへ移行した（資料10）。また、アンケート結果を活用した授業改善の好事例を全学で共有するため、授業改善アンケートの個別評価が高かった教員を講師としたFD研修「令和6年度授業改善アンケートの評価結果が特長的な教員による事例報告」を実施した（資料11）。

各学部の取り組みについては、下記のとおりである。

| 学部 | 課題 |
|------|----------------------------------|
| 看護学部 | ・GPAの平準化について、令和8年度は非常勤講師科目も含めて上限 |

| | |
|-------------|--|
| | <p>の目安を設定し、具体的な基準を指針に明記した（資料 12）。</p> <p>・大学 1 年生・2 年生 2025 年度（令和 7 年度）前期の授業改善アンケート回収率は、38 科目平均で 76.7%であった。令和 6 年度は、看護学部 1 年生のみ UNIPA を活用していたため、学部回収率の前年比較はできない。</p> <p>令和 7 年度前期の全学平均は 84.0%、2025 年度（令和 7 年度）前期学部・学科別回収率は、平均以下で、全学部・学科中最も低い水準であった。</p> <p>UNIPA の【授業評価結果照会】が利用できるようになり、担当教員は前期終了後評価結果を確認し、講義授業へ活用できた。</p> |
| リハビリテーション学部 | <p>・令和 7 年度前期に実施した授業改善アンケートの回収率は 85.5%であり、令和 6 年度と比較して高い水準を維持することができた。授業評価に関する自由記述コメントについても具体性があり、各授業における改善の検討に活用されている。また、学長カフェに学生が参加し、新入生として学年を代表して意見を述べる機会を設けることができた。これにより、学生の学修環境や授業に対する意見を学部運営に反映する一助となった。</p> |

<テーマ 基準 I-D 内部質保証の課題>

授業改善アンケートの回収率は徐々に向上しているものの、更なる回収率向上に向け、学生への周知の徹底が課題である（資料 13）。また、授業改善アンケート結果を活用した FD 研修は参加者から高い評価を得ているが、教育改善の取組みとして継続的に実施していく必要がある。

各学部の課題については、下記のとおりである。

| 学部 | 課題 |
|-------------|--|
| 看護学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・GPA の平準化について、学部内科目の「秀・優割合の推移」の確認とその対応を行う。 ・授業評価アンケートの回収率が低い要因を分析し、回収率を上げ授業改善に活用し、学生へのタイムリーなフィードバックをする。 |
| リハビリテーション学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も授業改善アンケートの回収率を高い水準で維持するため、学生への周知を継続的に行う。あわせて、学長カフェについては、担当学生を早期に決定し、学年及び学部全体の意見を事前に整理・集約する体制を整える。 |

<基準 I ミッションと教育の効果の改善状況・改善計画>

1. 実践的教育の充実及び基礎的研究力の醸成について

看護学部においては、各領域における演習及び実習の到達状況を整理・統合し、基本看護技術の到達度を明確化するとともに、教育内容の改善に活用する。

リハビリテーション学部においては、トランスレーショナルセミナー I・II の検証結

果を踏まえ、指導案の見直しを行うとともに、3年次に開講されるトランスレーショナルセミナーⅢの教育内容を体系的に構築する。また、臨床実習及び国家試験対策との連携を強化し、教育の質向上を図る。

2. 学修成果である五つの力とカリキュラムマップとの連結による客観的評価の実施と妥当性の検討について

看護学部においては、シラバスの「準備学修」及び「学修者への期待」について見直しを行い、具体的な学修内容及び必要な学修時間を明確に記載することで、学生の主体的な学修の促進及び学修成果の可視化を図る。

リハビリテーション学部においては、学修成果の可視化を更に推進するため、成績評価基準及び GPA の平準化について継続的なモニタリングを行い、客観的評価指標の精度向上を図る。

3. 地域連携及びボランティア活動の活性化について

地域連携推進委員会と連携し、ボランティア活動の年間計画を基に学部・学科横断的活動を継続する。

4. 定量化した学修成果の可視化及び PDCA の実効性（特に A への着目）の確保について

FD・SD 委員会においては、授業評価アンケートの更なる回収率向上に向けて周知方法の強化を図るとともに、教育改善に資する FD 研修を継続的に実施する。

看護学部においては、GPA の平準化に向け、成績評価の分布状況を継続的に分析し、評価の適正化に向けた検討を行う。また、UNIPA を活用した授業評価アンケートの実施及び結果の活用について、運用ルールを遵守し、授業改善への反映を徹底する。

リハビリテーション学部においては、非常勤講師担当科目を含めた成績分布の分析を継続し、GPA の平準化に向けた評価基準の目安設定について検討を進める。

授業改善アンケート及び GPA 等のデータを活用し、教育の質保証に向けた改善活動を継続して実施する。

【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

<根拠資料>

14. 令和7年度リハビリテーション学部「入学前自己学修課題と入学前 Zoom 交流会のご案内」
15. 令和7年度 リハビリテーション学部シラバス

[区分 基準Ⅱ-A-1 卒業認定・学位授与の方針に従って、単位授与、卒業認定や学位授与を適切に行っている。]

[区分 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針に従って、教育課程を編成している。]

[区分 基準Ⅱ-A-3 教育課程は、大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養及び、総合的な判断力を培うよう編成している。]

・（重点目標）入学前教育の充実及び大学として必要な教養教育の妥当性と評価については、看護学部では受講講座の一部（生物系）の変更を検討する。リハビリテーション学部では、入学前から4月にかけて、学修状況を把握する。

・（重点目標）ICT活用教育及びアクティブラーニングの推進については、シラバス作成前にFDを開催しアクティブラーニングを推進する。また、シラバスと連動したUNIPA（ユニバーサル・パスポート）を活用して準備学修の促進を行う。

「令和7年度課題への取組み」より

<区分 基準Ⅱ-Aの現状>

入学前教育の充実及び大学として必要な教養教育の妥当性と評価については、下記のとおりである。

| 学部 | 取組み |
|-------------|---|
| 看護学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育は、看護学生のための総合講座＋国語（ドリル付き）全員が受講し取り組んだ。また、オプション：医療系生物入門36名受講、オプション：ベーシック数学35名受講した。 ・入学前教育結果を早期に初年度教育に活かせるよう、入学直後にプレイスメントテストを実施、分析結果を教務委員会と共有した。 |
| リハビリテーション学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の取組みとして、入学予定者を対象としたZoomによる入学前交流会を令和8年1月14日に実施した（資料6）。参加者は入学予定者45名であった。 ・交流会では、大学での生活や学修内容に関する説明を行うとともに、ブレイクアウトルームを用いたグループ交流や、全体での不安・疑問の共有の時間を設けた。 <p>これらの取組みを通じて、入学予定者の不安軽減を図るとともに、入</p> |

| | |
|--|---------------------------------|
| | 学後の学修に対する具体的なイメージ形成につなげることができた。 |
|--|---------------------------------|

ICT活用教育及びアクティブラーニングの推進について、各学部の実践は、下記のとおりである。

| 学部 | 取組み |
|-------------|--|
| 看護学部 | ・シラバス作成に関するFD研修会に全教員が参加し、アクティブラーニングの推進に向け、学びをシラバスに反映することができた(資料15)。また、ICT活用に関しては、IR情報化推進委員会開催のUNIPA活用に関する研修に全教員が参加し、活用に向けた準備ができていた。 |
| リハビリテーション学部 | ・学修意欲の向上を目的として、シラバスFD研修会の実施を経て、グループワークやディスカッション等のアクティブラーニングを各科目において積極的に取り入れた(資料15)。これにより、学生が授業に主体的に参加する機会の拡充を図った。 また、UNIPAを活用し、授業前後の準備学修や課題提出をオンラインで一元的に管理することで、学修状況の可視化を進めるとともに、学生の計画的かつ主体的な学びを促進した。 |

<テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程の課題>

入学前教育の充実及び大学として必要な教養教育の妥当性と評価の各学部の課題については、下記のとおりである。

| 学部 | 課題 |
|-------------|---|
| 看護学部 | ・入学前教育に係る科目のうち特に生物系を引き続き強化し、入学後円滑な教育に移行できるよう支援する。 |
| リハビリテーション学部 | ・継続して実施する。 |

ICT活用教育及びアクティブラーニングの推進について、各学部の課題は、下記のとおりである。

| 学部 | 課題 |
|-------------|---|
| 看護学部 | ・学修成果に関する行動調査の告知がUNIPAを通し行われたが、学生の認知度が低いため、各学年での実施となった。 ・UNIPAの授業での効果的な利用方法を更に検討する。 ・PROGについては、教員の活用が充分に行えておらず検討が必要である。 |
| リハビリテーション学部 | ・アクティブラーニングの実施手法やICTツールの活用状況については、教員間で習熟度に差が見られることから、学部として、より効果的な実践事例の共有や相互学修を進める必要がある。 |

[テーマ 基準Ⅱ-B 学習成果]

<根拠資料>

16. 2024年度学修行動調査報告・情報公開用（IR・情報化推進室）：第6回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会報告

[区分 基準Ⅱ-B-1 授与する学位分野ごとの学習成果は明確である。]

[区分 基準Ⅱ-B-2 学習成果の獲得状況を適切に評価している。]

[区分 基準Ⅱ-B-3 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。]

[区分 基準Ⅱ-B-4 学習成果の獲得状況の公表に努めている。]

・（重点目標）授業改善及び学生満足度については、授業改善アンケート結果、教材研究、学修行動調査結果、学長カフェなどを通じて、満足度の向上を目指す。学長カフェは年複数回実施し、全学部の意見が聴取できるように日程の調整をUNIPAで周知し、関心度を高めたい。学部では、参加学生が決まり次第、学年及び学部全体の意見をまとめる。授業改善アンケートは、UNIPAの授業評価結果照会システムの運用ルールを全学で決定し、運用方法を遵守してタイムリーな授業改善アンケートの集計結果の確認や結果に対する学生へのフィードバックを行う。

「令和7年度課題への取組み」より

<区分 基準Ⅱ-Bの現状>

授業改善及び学生満足度については、学修行動調査はIR・情報化推進室より報告され、本学ホームページに公開する（資料16）。学長カフェは、7月11日（学部・学科学生10名参加）、12月11日（学部・学科学生12名参加）に2回開催され、学長等と学生が意見交換を行った。

各学部の取組みは、下記のとおりである。

| 学部 | 取組み |
|-------------|---|
| 看護学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケートは、UNIPAの授業評価結果照会システムの運用ルールを全学で決定し、前期及び後期終了後タイムリーに集計結果を確認できるようになった。評価結果照会は、担当教員のみであるため、結果に対する学生へのフィードバック方法は、担当教員が対応した。 ・学長カフェについて、1回目2年生2名が参加（当日1名欠席）2回目2年生1名が参加。学年の意見を取りまとめるためアンケート調査を実施して学長カフェに臨んだ。 |
| リハビリテーション学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・学長カフェでは、リハビリテーション学部から毎回学生が参加しており、「試験等の年間予定を早期に公開してほしい」「学校の土日解放について」などの要望が提出されていた。これらの意見について |

| | |
|--|--|
| | <p>ては、学部内で共有し、今後の学修環境整備や情報提供の在り方を検討する際の参考としている。</p> <p>・令和7年度から授業評価の集計結果をUNIPAで科目担当教員に選択肢ごとの点数、自由記述について公開することとした。その結果、授業改善アンケートの集計結果の確認や結果に対する学生へのフィードバックを行うことができた。また、令和7年度から、授業評価アンケートの集計結果について、UNIPA上で科目担当教員が選択肢ごとの得点及び自由記述を確認できるよう運用を変更した。これにより、各教員が授業改善アンケート結果を踏まえた授業の振り返りや、結果に対する学生へのフィードバックを行うことが可能となった。</p> |
|--|--|

<テーマ 基準Ⅱ-B 学習成果の課題>

授業改善及び学生満足度について、各学部の課題は、下記のとおりである。

| 学部 | 課題 |
|-------------|--|
| 看護学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員のタイムリーな授業評価結果の確認、学生へのフィードバックを継続する。 ・学長カフェへの参加の支援を継続する。 |
| リハビリテーション学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後もこれらの取組みを継続するとともに、学長カフェで得られた意見や授業評価結果を授業改善により効果的に反映させる仕組みの充実を図り、学生満足度の更なる向上につなげていく。 |

[テーマ 基準Ⅱ-C 入学者選抜]

<根拠資料>

17. 教員からのアイデア・意見まとめ（2025年度 看護学部）
18. 2027年度入試変更案（入試広報委員会）：第12回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会資料
19. 2025年度看護学部オープンキャンパスまとめ（報告）

[区分 基準Ⅱ-C-1 入学者選抜は、公正かつ妥当な方法により、適切な体制を整えて実施している。]

[区分 基準Ⅱ-C-2 入学者選抜に関する情報を適切に提供している。]

| |
|---|
| <p>・（最重要目標・重点目標）令和6年度定員未充足については、大学は一般・大学入学共通テスト利用選抜の出願状況にも大きく影響されるので、今年度の状況を踏まえて検討する。</p> |
|---|

- ・（重点目標）オープンキャンパスの歩留率（出願者数/参加者数）の向上と出願を促進するため、今後も学部と法人本部企画広報部が円滑に連携できるよう、入試広報委員会が支援する。学部では、オープンキャンパスの学部紹介で学部の魅力に加え、強み（交通アクセス良好、保健師課程カリキュラム、実践を重視した授業・カリキュラム）を追加する。また、模擬講義（兼高大連携公開講座）、実習室企画、学生企画を継続し、学部の魅力を積極的に発信することで、令和7年度も同等の参加者、出願者確保を目標とする。
- ・（重点目標）費用対効果を踏まえた学生募集活動については、作業療法の業務内容を明確にし、高校生がイメージできる内容を広報する。
- ・（重点目標）経営基盤の安定化については、留学生や社会人の入学者数を増やし、現行の入試区分内で出願者確保に繋がる方策を学部と入試広報委員会が連携して検討していく。

「令和7年度課題への取組み」より

<区分 基準Ⅱ-Cの現状>

令和6年度定員未充足について、各学部の取組みは、下記のとおりである。

| 学部 | 取組み |
|-------------|--|
| 看護学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 志願者確保に向けた活動 1) オープンキャンパス（高校生・保護者対象） 2) 高校訪問（高校教員対象） ※令和6年度より20校増 5-12月：23高校、12月：4高校、合計27校 3) 入試説明会（高校教員対象） 高校教員を対象とした入試説明会、教員との交流に参加 4) 大学見学（高校生・高校教員）：花巻南高校1年生 |
| リハビリテーション学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 短期大学時代においては、総合型選抜による志願者確保が中心であったが、四年制大学開学後は、一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜の動向が、全体の充足率に与える影響が相対的に大きくなる可能性がある。この入試構造の変化に対応するため、従来のスケジュールにはなかった12月のオープンキャンパスを新たに企画・実施した。本取組みは、年内入試において本学を検討した受験生層の離脱を防ぎ、歩留まりの向上を図るとともに、年明けに実施される一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜を見据えた受験生に対し、早期に本学の教育環境や立地の利便性を直接訴求し、出願への動機付けを強化することを目的としたものである。 |

オープンキャンパスの歩留率(出願者数/参加者数)の向上と出願の促進については、入試広報委員会が、法人本部企画広報部と各学部が連携しており、高大連携公開講座は各学部が継続して実施している。オープンキャンパス実施期間は、3月21日～12月21日で計7回実施している。

各学部の具体的な取組みは、下記のとおりである。

| 学部 | 取組み |
|-------------|--|
| 看護学部 | <p>部門目標：オープンキャンパス等において看護学部の魅力を積極的に発信し、令和6年度(492名)を上回る参加者を目指して学生確保に努める（資料17）。</p> <p>1. オープンキャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：3月22日、5月24日、6月29日、7月13日、8月9日（医療フェスタ）9月28日、12月20日 ・参加者（延べ人数）：466名 ※令和6年度：533名（3月-12月） ・満足度：満足群（満足・やや満足）9割以上 ・入学歩留まり率：25.5%（1月13日時点） ※令和6年度（1月7日）：30.0% ・協力体制：キャンパスガイド15～20名/回、教員8-10名/回 ・活動内容： <p>1) 学部紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四年制大学となった看護学部の特徴、三つの魅力を口頭及び動画で伝えた。 ・交通アクセス良好、保健師課程カリキュラム、実践を重視した授業・カリキュラムに関する説明を追加した。 <p>2) キャンパスガイドの活発化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四年制大学生を中心としたキャンパスガイドが主体的に活動した。 ・「先輩と話そう」を学生が主体的に実施した。 <p>3) オープンキャンパス企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学部「三つの魅力」の発信を意識 ・実習室企画：実習室・シミュレーションセンターにて毎回5企画 ・模擬講義（兼 高大連携公開講座）：全7回 |
| リハビリテーション学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度は、ミニオープンキャンパスや3月21日に予定されている春のオープンキャンパスを含めて、計7回実施した。学部紹介では、交通アクセスの利便性、先進的機器を活用した学修環境、早期からの国家試験対策等を強調した。 <p>各回の参加学生アンケートでは、「学校の説明や体験のすべてがとても面白かった」「身体を使って体験できる内容が多く、楽しく過ごせた」「学生や教員が明るく、緊張せずに話を聞くことができた」など、好意的な意見が多数寄せられた。オープンキャンパスの参加者数は、理学療法学専攻（PT）135名、作業療法学専攻（OT）31名であり、出願率はPT61.8%、OT45.2%となり、いずれも令和6年度より上昇した。</p> |

費用対効果を踏まえた学生募集活動について、リハビリテーション学部の取組みは、理学療法学専攻と比較して志願者数が少ない作業療法学専攻の現状を改善するため、法人本部企画広報部と連携し、高校生に作業療法の業務内容を具体的にイメージさせ

る広報活動を展開した。特に、デジタルパンフレットや SNS (Instagram、TikTok 等) といった、比較的低コストで高い到達率が期待できる媒体を活用し、作業療法の専門性やリハビリテーション分野における役割を分かりやすく発信した。

経営基盤の安定化について、入試広報委員会の取組みとして、令和 8 年度入学者選抜から、社会人への門戸を広げる意味からも総合型選抜の受験資格を拡大した(資料 21)。

各学部の具体的な取組みは、下記のとおりである。

| 学部 | 取組み |
|-------------|--|
| 看護学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・看護学部教員から志願者確保へのアイデア・意見を得て分析した(資料 19)。 分析結果は、以下のとおりである。 1) アイディア：【①学費軽減・学生層の拡大】：学費軽減策、多様な入学枠、転学科制度、【②認知度向上・広報戦略】：SNS 活用、BGM・オンラインオープンキャンパス実施等の工夫、対象者拡大、【③教育・環境整備】：教育成果の可視化 (SIM 教育) 2) 意見：【①課題】：認知度、学生の質、競争力、資料改善、【②強み】：オープンキャンパス、模擬講義、高校訪問は強みとして評価できる。 |
| リハビリテーション学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集、特に作業療法学専攻の志願者数増加を目的として、総合型選抜における外国人入学希望者の取り扱いについて協議を行った。その結果、日本語能力に関する基準を設定した上で、面接及び小論文の成績を総合的に評価し、入学可否を判断する方針について合意した。 |

<テーマ 基準Ⅱ-C 入学者選抜の課題>

令和 6 年度定員未充足について、各学部の課題は、下記のとおりである。

| 学部 | 課題 |
|-------------|---|
| 看護学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和 8 年度入試出願状況を踏まえ県内外の高校訪問の効果を評価し適切な高校訪問を検討する。 ・大学訪問、出前講座の P R を行う。 |
| リハビリテーション学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・新たに実施した 12 月オープンキャンパスが、実際の一般選抜等における志願者数や入学手続率にどの程度寄与したかについては、今後、蓄積されたデータに基づく検証が必要である。また、理学療法学専攻と比較して志願者数が少ない作業療法学専攻については、依然として大きな課題が残っており、入試区分を問わず、専攻独自の魅力を受験生に十分に伝えきれていない可能性が示唆される。 |

オープンキャンパスの歩留率(出願者数/参加者数)の向上と出願の促進についての課題として、高大連携公開講座の効率的な運営等を検討する。

各学部の具体的な課題は、下記のとおりである。

| 学部 | 課題 |
|-------------|---|
| 看護学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和9年度、令和10年度に仙台市内に看護系大学2大学の新設予定、他大学との差別化を図る。 ・本学部の強み「実学教育」を強調する。 ・SIMセンターなど充実した設備を活用することで看護実践能力を養い、即戦力として活躍できる看護師を目指せることをアピールする。 |
| リハビリテーション学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、法人本部企画広報部の協力を得ながら、適宜オープンキャンパスを実施していく。リピーター参加者も多いことから、初回参加者向け企画と再参加者向け企画を意識した構成とし、段階的に学部理解を深められる内容の充実を図る。 |

費用対効果を踏まえた学生募集活動についての課題は、高校生における作業療法の認知度は依然として低く、理学療法との専門性の違いや、本学独自の教育内容・強みについて、より直感的に伝える工夫が求められている。また、新たに実施した12月オープンキャンパスが、出願者数や入学手続率にどの程度寄与したかについては、今後、蓄積されたデータに基づく検証が必要である。あわせて、高校教員に対しても、本学の作業療法学専攻ならではの教育環境や卒業後の進路、将来性について、より一層の理解促進を図る必要がある。

経営基盤の安定化についての課題として、総合型選抜I期終了時点で社会人に相当する方からの出願はない。受験資格に関する周知方法を検討する。

各学部の具体的な課題は、下記のとおりである。

| 学部 | 課題 |
|-------------|--|
| 看護学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・看護学部教員の志願者確保へのアイデア、意見に関する実現可能な戦略として、①学費負担軽減策周知（特別奨学金、病院奨学金、公的制度等を高校生にも伝える）、②認知度・知名度の強化：通学圏内の県外高校の訪問数を増やす、③アピールポイント「実学教育」の明確化により志願者確保を目指す。 |
| リハビリテーション学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度は、当該制度の整備及び運用方針の検討段階であったため、現時点では外国人入学希望者からの応募には至っていない。今後は、入試広報委員会及び法人本部企画広報部と連携し、本学における受入方針や学修環境についての周知を進め、留学生や社会人を含む多様な志願者層への訴求を強化していく。 |

[テーマ 基準Ⅱ-D 学生支援]

<根拠資料>

20. 令和7年度読書感想文コンクールの主な評価基準（図書委員会）：第6回仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学合同運営協議会資料
21. 仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学 スチューデント・アシスタントに関する規程
22. 教育補助業務計画書
23. 仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学 スチューデント・アシスタント マニュアル

[区分 基準Ⅱ-D-1 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。]

[区分 基準Ⅱ-D-2 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

[区分 基準Ⅱ-D-3 進路支援を組織的に行っている。]

- ・（重点目標）読解力向上に資する読書課題として、読書感想文は継続して令和8年度も実施する。看護学部では提出された読書感想文を「スタートアップセミナー」等で活用し、授業としての活用を検討する。図書委員会主催の読書感想文コンクールへの応募を促す。読書率及び読書感想文の提出率に学部間の差があるので、その是正を検討する。
- ・（重点目標）分野別体育祭、せいよう祭、サークル活動の活性化については、学生が主体となり運営及び活動ができるような支援を継続していく。
- ・（重点目標）学生支援については、SAシステム活用を検討し、積極的に導入する。

「令和7年度課題への取組み」より

<区分 基準Ⅱ-Dの現状>

読解力向上に資する読書課題として、読書感想文の継続については、図書委員会主催による読書感想文コンクールを、建学の精神及び本学の教育理念に基づき、学生の主体的学修の促進及び基礎的教養の涵養を目的として、全学部・全学科を対象に実施した（資料20）。実施に当たっては、ポスター掲示及び学内システム（UNIPA）を活用し、全学生に対して広く周知を行った。応募期間は令和7年7月28日から10月3日までとし、読書感想文の質の担保を目的として、事前に評価基準を公開した。

その結果、応募総数は16件（看護学部7件、リハビリテーション学部1件、ビジネスキャリア学科5件、観光ビジネス学科2件、救急救命学科1件）となった。審査の結果、最優秀賞2名、優秀賞2名、奨励賞5名を選出したほか、司書特別賞2名、参加賞5名を設定し、学生の学修意欲の向上を図った。

本取組みにより、学生の読書習慣の醸成及び文章表現力の向上を促すとともに、学部・学科横断的な学修活動の機会を提供することができた。これらの活動は、本学の教育理念に基づく人材育成及び教育効果の向上に資する取組みとして位置付けられる。

各学部の取組みは、下記のとおりである。

| 学部 | 取組み |
|-------------|---|
| 看護学部 | <p>・令和6年度に引き続き、『入学前教育の一環として課題-読書感想文』は、入学後98名全員から提出された。課題は「看護・ケア」「生きる」「生活」のいずれかに関連した書籍を1冊読むことであった。課題テーマ別「看護・ケア」46.9% (46件)「生きる」52.0% (51件)「生活」1.0% (1件)であった。スタートアップセミナーの第10回目『スタディスキル-プレゼンテーションスキル』の授業で10グループに分け、各自記載した読書感動文を紹介し合った。学生の学びとして「本を読むことを大切にしていきたい」「積極的に読書をしていき、読解力や理解力を深めるとともに他の人の考えや意見に触れ、自分の視野を広げていきたい」「相手に興味を待ってもらうためにはまずしっかりと自分の話を伝えなければいけない」「本も読んで知識を増やしていこうと思った」「発表を聞いて私も読んでみたいと思う本がたくさんあった」「同じ本だったとしても、読む人が違うだけで、感じたことや思ったこと、考えたことが違うのが面白いと感じた」等があった。</p> |
| リハビリテーション学部 | <p>・入学前課題として、入学予定者に対し読書感想文課題を課した。各教員が推薦図書を各1冊選定したリストを提示し、学生はその中から1冊を選択して読書感想文を作成した。字数は800字とし、入学後に回収した感想文については、各教員が評価表に基づき25点満点で評価を行った。</p> <p>評価の高かった学生については、学内の読書感想文コンクールへの応募を促した。</p> |

分野別体育祭、せいよう祭、サークル活動の活性化について、各学部の具体的な取組みは、下記のとおりである。

| 学部 | 取組み |
|--------|--|
| 看護学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・せいよう祭にて、学生主体による模擬店及び「ふれあいカフェ」、「HIV・性感染症予防及び口腔衛生に関する啓発」、「健康学習グループ Group SHA」、「プレコンセプションケアに関する啓発活動」、「健康増進」の展示やワークを企画し、地域連携及びボランティア活動を行った(10月25日)。 ・五橋キャンパスのスポーツ大会をHOKUTO SPORTS SQUAREにて学生主体で実施し、学部・学科間の交流及び学年を超えたコミュニケーションを図った(3月3日)。 ・全学地域連携推進委員会担当教員1名、看護学科担当教員3名の体制として活動強化を図った。 |
| リハビリテー | 学部・学科別のスポーツ大会や「せいよう祭」において、学生が主 |

| | |
|-------|--|
| シオン学部 | 体となって企画・運営を行えるよう支援し、学部・学科を越えたコミュニケーションを活性化させた。 |
|-------|--|

学生支援について、各学部の取組みは、下記のとおりである。

| 学部 | 取組み |
|-------------|--|
| 看護学部 | ・スタートアップセミナー『スタディ・スキル4-効果的な学修方法』（5月1日）において、SAシステム（資料21）を活用して2年生10名をSAとして選出した（資料22）。業務内容は、学修方法の支援（教育補助）であった。仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学スチューデント・アシスタントに関する規程及びスチューデント・アシスタントマニュアル（資料23）を確認してから、教育補助担当の流れで進めた。10グループに分かれ、SA学生1名より「効果的な学修方法」の説明、その後質疑応答の時間を設けた。1年生からの学びは「これからの講義を受ける態度・姿勢を改めて考えるきっかけとなった」「勉強方法を細かく知るきっかけとなった」「体調管理が大切である」「課題は期限厳守」等の学びがあった。SA担当学生からは、「大学生活でのワクワク感や不安を質問してくれ、有意義な時間となった」「自分たちが1年過ごして得た経験を話す機会ができて嬉しかった」「真剣に聞いてくれて、とてもやり甲斐感があった」「SAを通して自分自身の1年間を振り返ることができて、成長につなげることができた。SA担当したから気づけたと感じた」等があった。 |
| リハビリテーション学部 | ・短期大学3年生の臨床実習Ⅲ客観的臨床能力試験（OSCE）の模擬患者役を、SAシステム（資料24）活用（大学2年生が協力者）で実施した（5月16日）。 |

<テーマ 基準Ⅱ-D 学生支援の課題>

読解力向上に資する読書課題として、読書感想文は令和8年度以降も継続して実施する。看護学部においては、提出された読書感想文を「スタートアップセミナー」等の授業において活用し、教育課程の中での活用を検討する。また、図書委員会主催の読書感想文コンクールへの応募促進を図る。

一方で、読書率及び読書感想文提出率に学部間で差が見られることから、その是正に向けた方策の検討が必要である。また、読書感想文コンクールの実施効果の検証及び入学後の継続的な読書率向上の推移を把握することも課題として挙げられる。図書委員会においては、令和7年度の応募件数が前年度（52件）と比較して減少したことを踏まえ、読書活動への動機付けを強化するため、応募者数増加に向けた取組みの検討を行う必要がある。

看護学部においては、令和8年度も読書課題及び読書感想文の提出を継続し、「スタートアップセミナー」において読書への関心を高め、読解力向上につながる教育内容の検討を進める。

リハビリテーション学部においては、読書感想文課題図書に加え、入学前に読むことが望ましい専門書を提示した結果、専門書を選択する学生が多く見られたことから、専門分野への早期関心形成に寄与する取組みとして継続的に検討する必要がある。

分野別体育祭、せいよう祭、サークル活動の活性化について、各学部の課題は、下記のとおりである。

| 学部 | 課題 |
|-------------|---|
| 看護学部 | ・学生が主体となり運営及び活動ができるような支援を継続していく。 |
| リハビリテーション学部 | ・全学行事やボランティア活動への参加率を更に高めるための啓発活動や、学生の自主的なサークル活動に対する支援体制の充実が課題である。 |

学生支援について、各学部の課題は、下記のとおりである。

| 学部 | 課題 |
|-------------|---|
| 看護学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップセミナーで SA システムを活用して令和 8 年度も継続する。 ・ SA 活用の時期、進め方の検討 ・初年次学生のニーズを把握した内容の検討 ・ SA 後、初年次学生への効果把握の検討 |
| リハビリテーション学部 | SA システムの活用を継続して行う。 |

<基準Ⅱ 教育課程と学生支援の改善状況・改善計画>

1. 入学前教育の充実及び大学として必要な教養教育の妥当性について

各学部において改善を進めている。

看護学部においては、入学前教育に係る科目のうち、特に生物系教育の強化を図り、入学後教育への円滑な移行を支援する。

リハビリテーション学部においては、入学前教育を継続して実施する。

2. ICT 活用教育及びアクティブラーニングの推進について

学修行動調査や UNIPA を活用した教育支援の改善を進めるとともに、PROG の教育改善への活用方法について検討を行う。

ICT 及びアクティブラーニングの活用について教員間での実践共有を進める。

3. 授業改善及び学生満足度について

看護学部においては、授業評価結果のタイムリーな確認及び学生へのフィードバックを継続するとともに、UNIPA を活用した授業評価アンケートの実施及び授業評価結果照会システムの運用ルールの遵守を徹底する。また、学長カフェへの参加支援を継続し、学生の意見を教育改善に反映させる体制の強化を図る。

リハビリテーション学部においては、授業評価アンケート及び学長カフェ等の取組みを継続的に実施するとともに、そこで得られた学生の意見や評価結果を授業改善へより効果的に反映させる仕組みの充実に図り、学生満足度の向上につなげていく。

4. 令和7年度定員未充足について

県内外の高校訪問の強化と認知度・知名度の向上を図る。また、オープンキャンパスの実施結果を詳細に分析し、一般選抜層に特化したプログラム内容の刷新や開催時期の最適化を検討する。特に、リハビリテーション学部では、大学全体の重点目標として掲げられている「作業療法の業務内容の明確化」を推進し、SNSや閲覧数の多いデジタルパンフレット等を活用することで、高校生が具体的な将来像を描けるような情報発信を強化する。これらの取組みを通じて、安定的な志願者確保につながる仕組みの構築を目指す。

5. オープンキャンパスの歩留率（出願者数/参加者数）の向上と出願の促進について

高大連携公開講座の効率的な運営等を検討する。さらに、学部ごとの強み「実学教育」をアピールし、今後も、法人本部企画広報部の協力を得ながら、適宜オープンキャンパスを実施していく。リピーター参加者も多いことから、初回参加者向け企画と再参加者向け企画を意識した構成とし、段階的に学部理解を深められる内容の充実に図る。費用対効果を踏まえた学生募集活動については、オープンキャンパスで学生（キャンパスメイト）との交流に加え、設備を活かした体験型ブースを拡充し、作業療法士という職業に対する関心を高め、出願につなげる。また、高校教員を対象とした説明会等においては、本学ならではの多職種連携教育や交通アクセスに優れたキャンパスといった強みを明確に提示する。これらの取組みについては、参加者数や出願動向等のデータを継続的に分析し、戦略的かつ効率的な学生募集活動として改善を重ねていく。

6. 経営基盤の安定化について

法人本部企画広報部と調整し、受験資格について積極的に周知していく。具体的な内容として、学費負担軽減策、認知度・知名度の強化、アピールポイントの明確化について、オープンキャンパス・大学案内パンフレットで積極的に周知する。現時点では外国人入学希望者からの応募には至っていないが、今後は、入試広報委員会及び法人本部企画広報部と連携し、本学における受入方針や学修環境についての周知を進め、留学生や社会人を含む多様な志願者層への訴求を強化していく。

7. 読解力向上に資する読書課題について

読書感想文課題を継続して実施する。看護学部ではスタートアップセミナーにおける教育活用を検討し、リハビリテーション学部では専門書提示による早期専門性理解の促進を図る。また、読書率及び提出率の学部間差の是正、読書活動の効果検証を今後の課題とする。

8. 課外活動について

分野別体育祭、大学祭、サークル活動、地域ボランティア活動を通じて、学生の主体性及び社会性の育成を図る。

9. 学生支援について

SA システムの活用を継続するとともに、初年次学生のニーズ把握及び支援効果の検証を行う。また、入学後の学生の不安や学修上の課題を把握し、学生ニーズに応じた SA 活用方法及び授業運営の見直しを行う。さらに、SA 活用による教育効果及び学生満足度について、支援直後、前期終了時、後期終了時等の複数時点で分析を実施し、その結果を授業改善に反映させる。